

観光道路「梅大路」うめおおじの完成

昭和31（1956）年の正月、西鉄太宰府線の軌道に沿って五条と大町をつなぐ道路が開通しました。太宰府駅前前は、4年前の太宰府天満宮1050年大祭に合わせてすでに整備されており、天満宮への初詣客を乗せたバスが新設の道を通って駅前広場へ次々に到着し、参道は大祭以来の盛況となりました。後に「梅大路」と名付けられる新道路は、昭和26年

の交通事情を良くするねらいで、既設の五条―新町間道路にはタクシーを、新道路にはバスをという分離誘導策を採り、繁忙期の交通の円滑化を図りました。

ところが初詣に合わせて完成を急いだ新道路、開通当時はまだ仕上がっておらず、水はけ悪い仮舗装の五条口が、ひっきりなしの大型バスの往來であつという間にデコボコに

そこで、元旦から町役場の若手職員が応急処置に乗り出し、にわか仕立ての土木作業員として路面ならしに奮闘したそうです（『太宰府町公民館報』）。

翌32年2月11日、太宰府町ではめでたく観光道路「梅大路」完成祝賀式開催の運びとなります。町会議長による経過報告では、展望として都市計画



の理由には「（太宰府は）由緒深い日本古代文化開発の地であつて、先人に劣らない現代文化の都市とするため都市計画を施行する必要がある」とあり（『太宰府町議会事録』、歴史文化に対する太宰府町の自覚と、終戦後の新しいまちづくりへ向けての使命感とが見て取れます）。

新道路建設は4カ年の計画で事業費は総額1400万円、うち半分は国・県の補助金と寄付に頼り、残り半分は町が負担しました。太宰府天満宮周辺

区域のさらなる拡張などが述べられますが、インフラの整備だけでない観光サービスの充実を目指す姿勢もうかがわれ、「ほんとうに愛される観光地太宰府を築き上げたい」と締めくくられています（『太宰府町公民館報』）。この日はともに西鉄福岡―太宰府直通電車の乗り入れ開始も祝われ、仮装した「ドンタク隊」が町内を賑やかに歩きました（『毎日新聞』）。

太宰府市公文書館 藤田 理子